



田園風景（今金町）

# 道経連会報 No.294

## CONTENTS

巻頭言	1
第70回北海道経済懇談会	2
地域会員懇談会（オホーツク）	13
2024年度 「次世代経営人財ゼミ特別編」開講	14
常任理事会レポート	25
委員会の動き	29
会員企業紹介	38
会員の異動	40
道経連カレンダー	41
新会員企業紹介	42
グループ活動報告	46
人事・労務相談日	64
北海道の経済動向	66
わがまち紹介（今金町）	68



北海道経済連合会 常任理事

**中野 真寿**

三井物産株式会社  
理事北海道支社長

## 未来へバトンをつなぐ 森づくり

2022年4月1日午前4時46分、私はジンを片手に北海道似湾山林から空を見上げていた。未だ厳しい寒さが残る雪解けの季節、凜として立ちそびえる静かな森から少しずつ朝日がさし込み、悴んでいた私の手を温めてくれる。少量のジンをストレートで一気に飲み干し、「ほんと、綺麗だなあ〜」と瑠璃色の空に思わず息をのんだ。



似湾山林から見る瑠璃色の空

前赴任地ニューヨークから北海道に着任した私の初仕事は夜中の社有林にあった。北海道支社では積丹町で地域活性化事業に取り組んでいる“積丹スピリット”と協働し、ジンの風味を決めるボタニカルとして社有林から採取した樹木をフレーバーとする“クラフトジン・プロジェクト”を立ち上げていた。

その第1弾のジンは、社有林似湾山林からアカエゾマツの枝葉を使用し、瑠璃色の空が

広がる夜明けの森をコンセプトにしたことから“瑠璃”と命名された。4月1日夜明け前4時46分から30分間だけ似湾山林から見る空が瑠璃色に染まるマジックアワーが訪れる。「瑠璃色の空をこの目で見てみたい」という私の我儘を聞いてもらったのだ。北海道での初入社の日、マンハッタンの喧騒に少し疲れていた私を癒してくれたのは北海道の大自然であった。

三井物産は日本国内75ヵ所に、合計約4万5000haの社有林“三井物産の森”を保有しており、その約8割が北海道にある。森林経営のすべての土台となるのは森林が持つ多様な機能を守り育て、「持続可能な森林」を実現する適切な森林管理である。先代から受け継いできた森を守り、未来の子供たちに大切な緑の資源を絶やすことのないよう、“三井物産の森”の管理を担う三井物産フォレストと一体となった管理・育成を目指している。

さて、クラフトジン第2弾はアイヌ文化発祥伝説が残る北海道・平取町二風谷近くの社有林・沙流山林から採取したトドマツとヨモギを基調に、北海道産を中心に18種類のボタニカルで仕上げたものとなった。アイヌ語でお酒を意味するトトからインスピレーションを受け、“杜の斗(TONOTO・森のお酒)”と名付けられたジンのラベルは二風谷アイヌ工芸作家の関根真紀さんによるデザインだ。新緑の芽吹きが香る、力強く躍動する森を感じさせてくれるジンに仕上がっ

た。

先人が受け継いでくれた森を守り、大切に育てた森林がもたらす恵みや多様性を表現するこれらのクラフトジンは、森林を五感で味わうノベルティーとして広く社内で活用されている。



クラフトジン「瑠璃」と「杜の斗」

三井物産の森は、森林が持つ多様な価値や機能を適切に守り育てると共に、森林の多様な価値を高め、社会と会社の両面で確りと活用し、そこで得られた収益を森林経営に還元し、経済的な観点も含めて持続可能としていくことを目指している。総合商社ならではのネットワークや機能を活用しながら、ユニークなアプローチで森林の多様な価値を高め、未来へバトンをつなぐ森づくりを目指し、これからも北海道の皆さんと一緒にさらなる森林の価値創造へと挑戦していきたい。

